



新年明けましておめでとうございます。2025年の干支は乙巳(きのと・み)です。乙は「困難があっても紆余曲折しながら進む」こと、巳は「再生と変化」を意味することから、乙巳の2025年は「努力を重ね、物事を安定させていく」という縁起のよい年になると期待されているそうです。今年もカスタネット通信で皆さまにお役立ち情報をお伝えしていこうと思います。

スターバックスサイニングストア

先日、東京都国立市にある「スターバックス コーヒーnonowa国立店」に行ってきました。このスターバックス店舗は国内初の手話が共通言語となるサイニングストアです。お店は一見、町田駅や16号沿いの店舗と同じように見えますが、ここで働いている従業員の方の多くは聴覚障がいがあり、主なコミュニケーション手段として手話を用いているそうです。開業当時、私はST学生で、趣味で手話を勉強していたので、行ってみたいとずっと思っていました…中々行けずやっと4年越しで行くことができました！



まずお店の看板のスターバックスの文字の下には**指文字***1のイラストがあり、お店に入る前からワクワクします。店舗は路面店ではなく国立駅直結の商業施設の中にあります。お客さんの中にも手話で会話している人がいるのかなと思っていましたが、おしゃべりしながらお茶をする人、勉強中の学生、

仕事の人など通常と変わらず、手話で会話している人はいませんでした。そのような中、注文は手話で！と意気込んでいましたが、注文を受けていた店員さんは**聴者***2だったので普通に注文しました(笑)一緒に行ったSTの友人は**聾者***3の店員さんが注文を受けたので、手話とジェスチャーで会話して、「カスタマイズ」「〇〇追加」「温める」などの手話を教えてもらっていました！期間限定のドリンクとかどうやって手話をするのでしょうか、新しく作るのでしょうか。(メニューには指差しでわかるように表記されているので、手話がわからなくてもご安心を！筆談もしてくれます！)

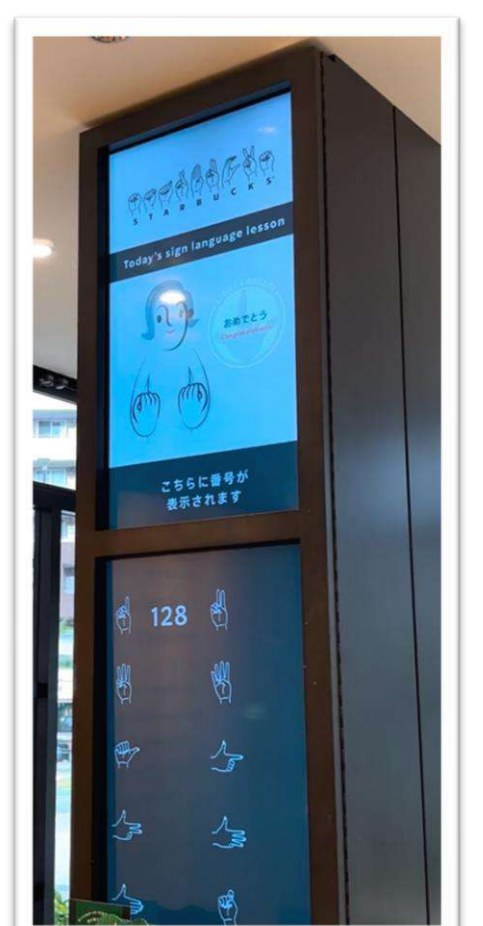
*1指文字：ひらがなやカタカナ、アルファベットを一つずつ指で表現する手法

*2聴者：聴覚に障がいがなく、通常の音声で会話する人々のこと

*3聾者：重度の難聴があり、手話を第一言語とする人々のこと

商品の受け取りは他のお店と同じ番号での呼び出しですが、店員さんやお客さんの中には聾者で全く**口話***4を使わない方もいるため柱にデジタルサイネージが設置されていて番号が表示されるようになっています。これは聴者でも見てわかるので助かりますよね。またその番号の上には手話を学べる動くイラストが流れていました、待っている時に覚えて従業員の方に手話で挨拶してみたいですね！

*4口話：声を使って情報を伝える音声言語を基にしたコミュニケーション方法



デジタルサイネージ

初めてスターバックスサイニングストアを訪れましたが、聴覚障がい者だけでなく若い聴者や高齢者、全ての人が過ごしやすい空間だと感じました。メニュー表やデジタルサイネージなど視覚的な工夫は誰にとっても分かりやすいように作られていました。このようなスターバックスサイニングストアはなんと世界に5店舗しかなく、その内の一つが日本の、この国立の店舗なのです。壁紙やエプロン、デジタルサイネージや看板など全て手話のデザインが施されていてとてもワクワクする空間ですので、皆さんもぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか？

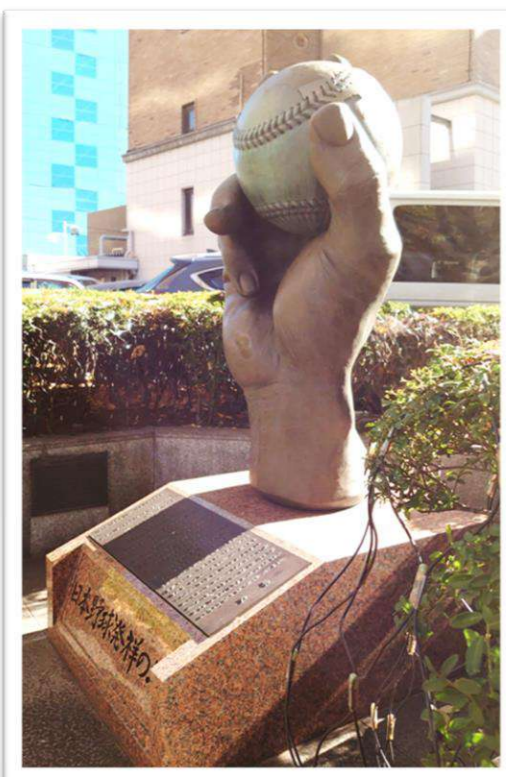
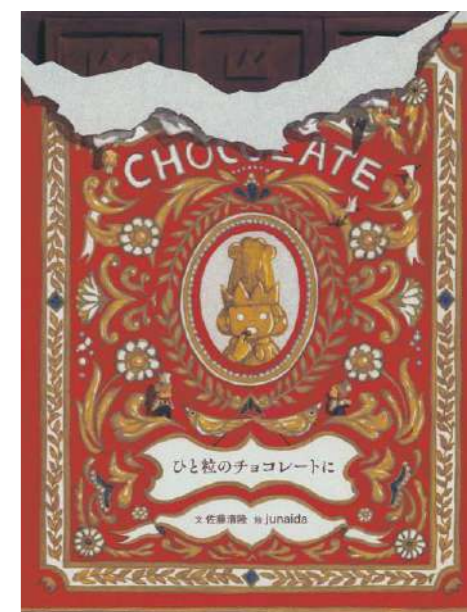
黒板の「手話コーナー」では季節に合った手話を教えてくれます。この時は「秋」「紅葉」「ホリデー、クリスマス」「クリスマスツリー」。聴覚障がいを持つアスリートが参加する国際的なスポーツイベントであるデフリンピックの情報もありました。



「世界」原画展



カスタネット通信2021年6月号に、「コロナ禍で出歩けずGWを持って余しそうだから、カカオ豆からチョコレートを作ったけれど、口溶け滑らかなチョコレートは作れなかった。」という話を書きました。その時にご紹介したのが、福音館書店の「ひと粒のチョコレートに」という絵本でした。junaidaさんという方が絵を描かれていて、絵本マスターに「最近注目されています！」と教えてもらっていました。



2024年12月、神保町の「TOBICHI東京」というところでjunaidaさんの「世界」という絵本の原画展が開かれている、という情報を得ました。開催期間にちょうど都内に出る用事があったので、寄ってみました。神保町はおそらく初めてかな…と思いながら階段を登って地上に出ると、まず目に入ったのは野球のボールを握る手でした。東京大学発祥の地であり、日本野球発祥の地とのことです。右手を見ると共立女子学園、小学館、集英社が並んでいました。神保町には古書店街もあり、書物と関係深い町なのだな、と思いました。



原画展といっても、飾られているのは「大きな1枚の絵」と絵本「世界」の表紙の2枚だけです。絵本「世界」は「大きな1枚の絵」を30ページに分割したもののなのです。「大きな1枚の絵」の大きさは、下の方を見る時はしゃがみ、上の方を見る時は背伸び(身長約160cm)、おとなが3人並ぶときつい、というくらいです。自然や動物、お化け、怪物、建物などたくさんのもものが描かれた1枚の絵の中で、左下から右上に向かって時間が経過しており、季節の移り変わりが見られます。森の中かと思っていたら、いつの間にか海の中になっていた！こんなところに人が隠れてた！など、じっくり見たいけれど、後ろに人が並んでいるとどうも気になりました。

2点の原画を見た帰りに神保町を少しだけ散策しました。古書店がたくさん並んでいる通りもありましたが、探している本も無いし、楽しみ方もよく分からないので素通りしてしまいました。気になったのは、店先で大きなこけしが売られていたことです。箱にこけしがぎっしり入れられて…。なぜなのでしょう。



今年もよろしくお願
致します。



おぎはら耳鼻咽喉科